

(1) 授業をデザインする力を身に付ける。

- ・良い授業を見る機会をつくる（地区、校内研）。
- ・授業デザイン力を高めるために、授業の振り返りを言語化をする。
上手くいかなかったことなどを指導案等に朱書きし、集めて分析をする。→授業に無駄がなくなる。
- ・授業の様子を録画して振り返ることは、授業改善に有効である。
- ・他の教師と関わって授業づくりをすることが、授業者の「楽しい」につながる。また、若手の育成にもつながる。
- ・児童生徒にとって、学習内容が自分ごととなる場面をつくる。
- ・児童生徒の興味・関心を踏まえて、教科書の内容をアレンジしたり、軽重を図ったりする。

(2) 言語活動を充実させるために、児童生徒が技能を習得する。

- ・なぜその言語を使うのか目的・場面・状況を大切にしながら、技能を高める。
- ・子どもたちと一緒に言葉の場面や機能を考えていく。(例) How much?はどのような場面で使われるか。
- ・基本文を徹底的に練習することで、身近なことを言えるようになる。

(3) 小・中・高の連携をする。

- ・子どもの変化の視点から、それぞれの段階でどのような力を身に付けているのかを知る。
- ・各校種における取組を知ることが大切。
- ・スーパーティーチャーの授業や地区の研究授業を参観するなどして、具体的なイメージを持つ。

(4) 中学生の英語力向上事業※の取組について

- ・英検の受験自体が目的ではない。どんな力をつけたのかが大切。
- ・授業改善において成果が見られているが、プロセスを共有することが大切。
- ・県として英検に代わる目標を設定する必要がある。
- ・受験や英検等以外で、子どもたちの目標をどう掲げていくのかを考えていく必要がある。

※中学3年生（唐津市・嬉野市・基山町）において、英検の全員受験を試行することで、生徒が目標に挑戦する、切磋琢磨する環境が及ぼす効果等を測定し、今後の英語力向上対策に生かす。